

現代日本の住宅における食事炊事生活の形成にあらわれた連続性と変化
 の実証的研究 大阪を中心とした地域の都市部における独立住宅の住宅内部の空間のくみ
 たてられかたとその成立過程を中心に その3 食事とその型

大阪工大建築 塩谷寿翁 ○河合祐

日本女大家政 沖田富美子 鈴木淳子 熊本女大生活科学 亀山春

はじめに：本報はその1・その2につづくものである。食事炊事空間とそのつかわれかたの展開はすぐれて食事および炊事文化の変容の問題であり、その意味の追究には、ひとつの文化における諸要素の相互関連からさぐる視点が必要である。

目的・方法：この研究では、現代日本の住宅で典型化しひとつの統合化された様式として定着しているとみられる食事炊事空間のくみたてのもつ意味を追究しようとしている。そのために家族が日常にたべている食事（献立）の内容をとらえて、それと食事および炊事のしかたとその生活過程、食事炊事につかわれる住生活財（家具類・道具類；食器類・調理器具類）のもたれかたとそのおかれかた、との関係をさぐる枠組みを用意した。すなわち①日常の食事（献立）の内容（人-食関係）、②食事（献立）と食事炊事に使われる道具類との関係（食-モノ関係）、③つかわれる道具類とそのおき場所・おかれかたとの関係（モノ-空間関係）、から食事炊事と住居空間との関係（食住関係）をとらえようとする。結果の要約：本報では、おもに①についてのべる。採取することができた献立⁽¹⁾の内容からは、朝食はパン系列と飯系列、昼食は麺類系列に、夕食は飯系列にまとめられる献立の型をみいだしている⁽²⁾。注(1)1987年7月5日または12日(日)・8日(水)・11日(土)の週日・週末・休日にまたがる3日間について延べ261例を採取。(2)このような食事の型については、1972年に調査されたことがある(石毛直道「食事パターンの考現学」『生活学』第1冊、日本生活学会編(ドメス出版)、1975年、pp.165-180)。